

「集まって！つぶやきを拾って！ささえあう！「安らぎ広場」を活用した人づくり」  
雲南市（三刀屋町）躍動と安らぎの里づくり鍋山

## 1 鍋山地区の概要

(1) 世帯数 402戸

人口 1,357人

高齢化率 41.34%

自治会数 28自治会

(2) 鍋山小学校

児童数 51名

(3) 鍋山地区の概要

鍋山地区は雲南市の中西部に位置する農村地帯である。地区内には国道54号線が通っているが、地区内の標高差は大きく、山間地や傾斜地に住宅が点在している集落もある。

地区内に幼稚園及び小学校はあるが、児童数は平成15年の104名から平成30年には51名と近年減少している。地区内に病院はなく、3店舗あった個人商店は現在1店舗となった。そのため、通院や買い物には自家用車やデマンド型乗合タクシーの利用が多い。

上記の状況に対応するため地域自主組織「躍動と安らぎの里づくり鍋山」では市から水道検針を受託しての高齢者の見守りや安心生活応援隊による除雪や草刈り等の生活支援、チーム「ちょんてご」の個別訪問による声掛けなど、地域福祉を中心に幅広い地域づくり活動を展開してきている。



鍋山交流センター



栗原分室「安らぎ広場」

## 2 事業の趣旨

本事業では見守り事業の一環である地区住民の有志による看護師のボランティアチーム「ちょんてご」やコミュニティーナースを中心に地域の人材を活かした活動を行い、地区住民への活動の拡大を目的として実施した。

「ちょんてご」を核とした活動を通じて、地域住民が自分自身の健康のみならず地域全体のささえあいのためにできることを考え、参加・行動できるようになる事をねらいとした。

## 3 具体的な取組内容

(1) 安らぎ広場及び交流センターでの集いの場の運営

ア ニーズに合わせた定期的な健康教室などの集いの場の開催

イ 安らぎ広場における子供達も一緒に関われる場づくり

ウ 安らぎ広場での得意ごと発揮の場づくり



安らぎ広場の活動状況①

- (2) 既存事業等と連携した日常的な見守り、声かけ活動・健康チェック体制の担い手獲得
- (3) 先進事例視察や学会、研修会への参加、研修生の受け入れ



安らぎ広場の活動状況②

#### 4 評価と成果

##### (1) ちょんてごカフェ

体組成測定・血圧測定・健康相談・困りごと相談、持ち寄りおかずによる昼食などの活動を地区住民有志を中心に月1回第4金曜日の9時～12時に実施した。成果として「ちょんてご」メンバー自身が担い手としての意識を高めるとともに、これまで交流のなかった住民同士の関係性が構築された。

また、学校と連携してなべっ子発表会にて血圧測定、体組成測定、大腸がん・乳がん検診の啓発を行い、小学生が医療について興味をもち、親が健康でいてほしいという気持ちを共有することで、子育て世代の健康への意識付けができた。



なべっ子発表会

##### (2) 地区住民の意識の変化

ちょんてごカフェでの交流により地区住民が自身、また周囲の人についても

関心を持ち、これまでよりも見守りや声掛けする意識が高まり、教え合いや学び合いなどの主体的な活動につながってきている。

また、集い、得意ごとを發揮することで、活力ある生活を送ることのできる人材の育成につながるとともに、地区住民であるちょんてごメンバーも含め自らの存在価値を見出し、今後も意欲的に取り組むためのやりがいにつながった。

##### (3) 次の担い手の育成

2か月に1回第3木曜日にちょんてご定例会を開催し、雲南市の保健師も参加し、行政の取り組みや保健師から見た鍋山の現状について理解を深めることで、活動の有意義性について認識が高まり、日ごろの取り組みの質の向上につながっている。

上記の取り組みを通じて、地区住民の集いの場を核として住民同士が声をかけあう関係性を構築でき、互いを気に掛けるようになったことは、今後の様々な地域活動の継続、発展のために重要であり、本事業の大きな成果であると感じている。

#### 5 今後の課題と見通し

主体性を持って意欲的に見守り活動等を行っていかうとする人材の育成・確保するためには、現在の活動内容を大切にしながら継続することを基本に、あらゆる世代にもアプローチができる工夫をしていく必要がある。

来年度以降も、困りごとが提示しやすい雰囲気と、それを拾い、主体的にささえようとする住民さんの活動を後押しできる場づくりの工夫を模索しながら、ちょんてごカフェの継続とちょんてごメンバー増員、主体的に住民自らが自分たちの住む鍋山について協力していける仕掛けを考えて活動を行っていく。

(文責：躍動と安らぎの里づくり鍋山チーム「ちょんてご」代表 中村裕美子 )